

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

第52号 平成19年7月

July 2007

目次

CONTENTS

特集 「楽しかったドイツ旅行」

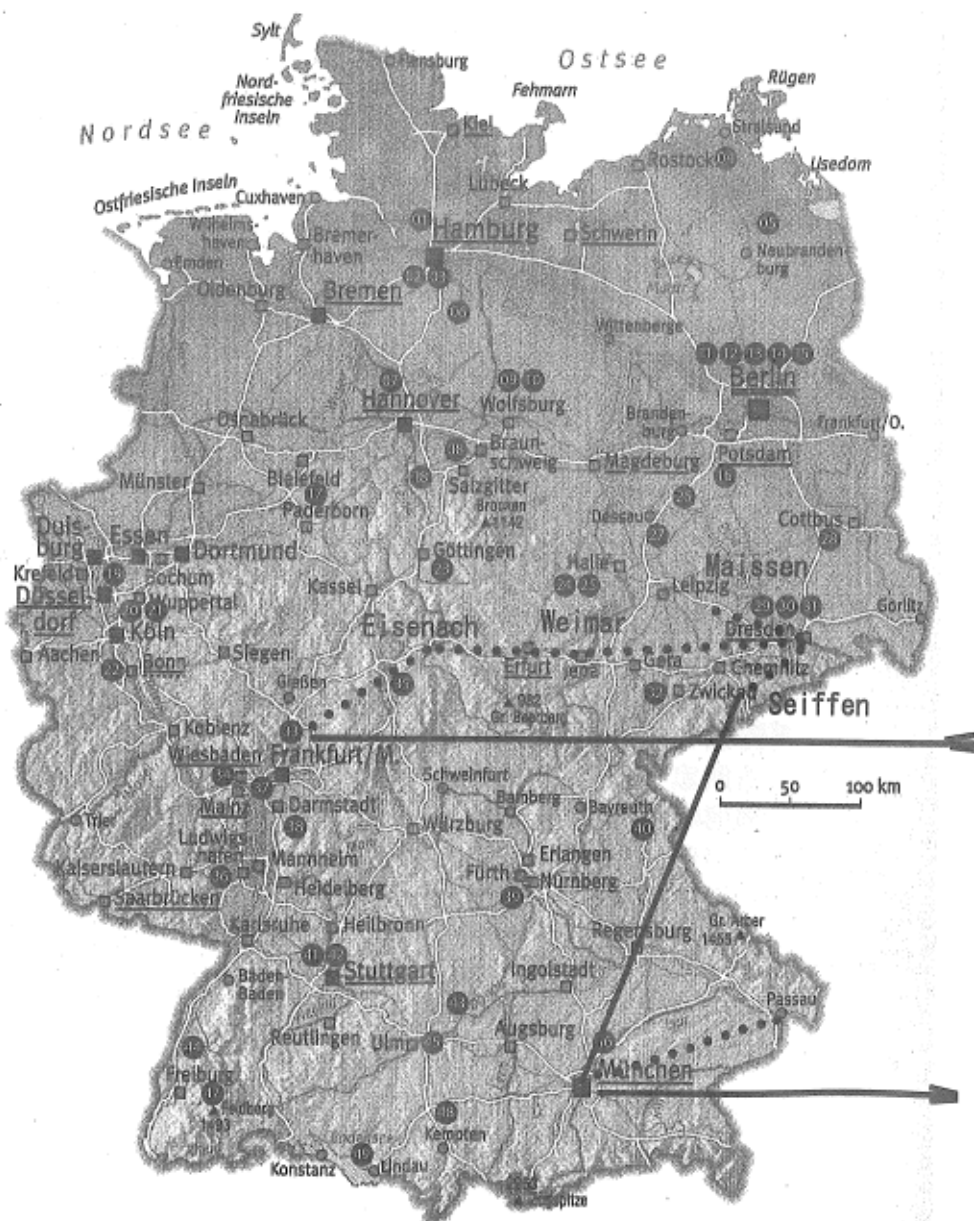
2007年5月14日-21日 湘南日独協会主催でドイツ旅行が実施されました。参加者は23名で姉妹協会のあるワイマールも訪問、鎌倉市長からのメッセージを伝達しました。

★旅行の手記	頁
織田正雄	3
石井康裕	4
千澤忠彦	4
新井晋・利枝子	4・5
平野嗣和・紀美子	5・6
大石則忠・祥恵	6・6
広瀬信昭・春子	7・7
三谷喜朗・邦子	8
鴨田博伸・美智子	8・9
稲見 格・順子	10・12
勝田政吾・佳代子	13
森野恵美子	13
宮原シズ	13
樋口由美子	13
佐合千佳子	15
★お知らせ	16

— ドイツ訪問記 —

楽しかったドイツ旅行

旅程【2007/5/14～5/21】 成田→フランクフルト→アイゼナハ(泊)
→ワイマール→ドレスデン(泊)→ザイフェン→ドレスデン(泊)→マイセン
→ドレスデン→ミュンヘン(泊)→パッサウ(泊)→ミュンヘン(泊)→成田



ドイツ旅行を終わって

織田正雄

今般の旅行は三谷さんの強い要請で実施したものであるが、勝手ながら私の一存で訪問先を決め、東日観光の阿部さんの応援を得ながら全体プランを作成した。

昨年11月からドイツ側の訪問先との交渉を始めた。

ホテルは阿部さんに一存。訪問先の受け入れ責任者との細かい取り決め、時間の調整、こちらの訪問人数と受け入れ側の人数調整を始め、

アスパラガス入りメニューを要求、細かい観光コースや時間割の調整など毎日PCに張り付いている様な状況であったが、幸い敷かれたレールから脱線することなく、無事完走出来たことは誠に嬉しい限りである。

参加頂いた方が良い方々で、旅は楽しく、こういう仲間でもた旅行出来ると良いなと思っています。



ワイマールにて。ワイマール独日協会の皆さんも一緒に記念撮影。

忘れられない旅

石井 康裕

今週一週間は本当に、本当にお世話になりました。

出発当初の悪天候も後半は日に日によくなり、旅を楽しむ事ができました。

出発前に心配した“一人旅”の寂しさも、皆様のあたたかい心遣いで全く感じませんで、日に日に楽しくして頂きました。

訪問各地での日独協会の人を中心としたご協力にも感謝しております。

訪問した先は一ヶ所も忘れずに心に残って居

ります。これからの人生で忘れる事はないと思います。出来ましたら同じ旅をもう一度したいものです。

食いしん坊の私にとっては食事毎楽しく頂く事が出来、アレンジして下さった人々に感謝して居ります。

明日、皆様より一足早く、米国テキサス州へ向け出発します。

日本での再会を、楽しみにして居ります。
ごきげんよう！ 2007.5.19

素晴らしかった日々！

千澤 忠彦

すばらしい日々でした。これほどまでに充実した旅行は、他に類がないのではないかと思います。

パッサ、ゲーテ、シラー、ルター、クラナッハの史跡を訪ね、すばらしい景観の中にたたずみ、歴史に残る建物や芸術品についての知識を深め、そして現地日独協会の方々との交流にも参加させて頂き、感慨深い旅行でした。

とりわけルターの宗教改革と、ワーグナーの

オペラ「タンホイザー」ゆかりのヴァルトブルグ城を擁する旧東独の美しい小都市アイゼナハに滞在出来たことは、よき思い出として心に残りました。

今回の実り多い旅行は、織田会長殿の格別なるご高配と、湘南日独協会の皆様のご尽力の賜物と感謝しております。

誠に有難うございました。

旅の思い出

新井 晋

私にとっては初めての欧州、ドイツだったので見聞きするもの全てが新鮮でしたが、車窓に展開する良く手入れされた田園、林野の光景とその間に点在する町や農村の家々の調和した屋根瓦の色が終始印象に残りました。

今回訪問した所は皆思い出がありますが、特に印象に残ったところはドレスデンとパッサウでした。

第二次大戦で一面焼け野原となった東京の下

町育ちなので、同じく戦火にあいながら瓦礫の一つ一つを組み立て、旧の姿を取り戻したドレスデンの建築群と戦火の瓦礫で、いたるところの堀を埋めてしまい、富岡八幡宮のすぐ上を高架道路が走っている今の東京・下町を無意識のうちに対比していた所為かも知れません。

パッサウでは古風な佇まいのホテルと大聖堂でのパイプオルガンの演奏、それにドナウの流れの遊覧が印象に残りました。

パイプオルガンの演奏は日本でも聞く機会がありますが歴史の重みを感じさせるドームの中で聞くオルガンの響きはやはり格別のものでした。

十日足らずの一旅行者の印象でどこ迄当てているか判りませんが、日本に比べ、ヨーロッパの時間の流れはゆっくりながら着実に、統一欧州への歩みも紆余曲折しながらも尚進んで行くの

ではないかと思いました。

旅行中、韓国、中国、台湾からの旅行者の団体とも行き会う機会がありましたが、将来東アジアの国々がEUの様な共通の基盤に立って行動する時代が来るのか、それともそのうちの一国が突出して、米欧と鼎立する事になるのか、そんな事も考えさせられながら成田に戻って参りました。

「菜の花畑」に感動！

新井 利枝子

ドイツ旅行から帰国して一週間たちました。旅行で過ごしていた日々がついこの間なのに遠い昔の事のように思えます。たくさんの思い出の中から一番印象に残って、私の頭に浮かんで来る風景があります。

5月16日ドレスデンのホテルからチェコの国境に近い木工おもちゃで世界的に有名な村ザイフェンに向うバスの車窓から見えた「菜の花畑」です。パッチワークの菜の花畑。地平線まで続く菜の花畑。バスで走っても走っても続く菜の花畑。その広大な緑の草地と黄色の菜の花畑の美しさに感動しました。地球温暖化防止の一つCO2削減のエネルギー革命を菜の花栽培することで行動をおこしている。

私は以前、淡路島菜の花プロジェクトの人達のお話を聞いて菜の花のオイルは商売としてやっていくのは本当に難しいと思っていました。ドイツと日本の国土面積はほぼ同じだが平

野の広さが90%ちかいドイツと30%の平野しかない日本は知恵がいるなあと思うしました。

ガイドさんが「今、皆さんが乗っているバスも菜の花オイルで走っているんですよ」と話された。ビュンビュン走るバスに又感動してしまいました。



ドナウ下りでの風景（羊が見えますか？）

窓辺の赤い花

平野 嗣和

バスの中でわれわれ夫婦が話題にしたことは電柱のない通りと家並みの美しさ—特に屋根の形とバランスよく配置された窓の調和でした。広大な森と緑の畑の中に点在する村々や街の中のどここの家も窓辺を赤い花と白いカーテンで飾っている情景を頭の中に焼き付け、横浜での

生活にぜひとり入れたいと約束し合いました。

織田会長をはじめ、東日観光の阿部さん、樋口さん、また現地の観光スタッフの皆様にご感謝申し上げますとともに参加者皆様との交流がこれからの人生に役立つ事を願っています。May20.2007, ミュンヘンマリオットホテルにて

あっという間の6日間

平野 紀美子

楽しいお仲間とのあっという間の6日間でした。たくさん学ぶことのあった有意義な旅でもありました。

誘ってくださった織田さんに感謝、お世話くださった阿部さんに感謝、そして尻込みしている私をつれてきてくれた主人に感謝です。

ドイツ旅行記

大石 則忠

湘南日独協会のドイツ訪問の旅に参加出来、歴史的意義深い各地を訪問できて大変有意義で楽しい旅でした。旅での思い出は沢山ありますが、大変感銘を受けたことを記します。

今回ドイツの地を踏むと直ちにEisenachに向かい、翌朝Wartburg城のMartin Luther師がかくまわれていたお城の一角の居住区と書斎を拝見した。ギリシャ語のNew Testamentをドイツ語に翻訳された場所であった事を目の当たりにし感激しました。

ドイツはご存知の通り当時は諸王族の国々から成り立ち、各地の方言で話されていたのは当然でしょう。そこでLutherは翻訳に当たって、普遍的に理解してもらえる言葉を選びながら聖書を翻訳したとの事。(以後、標準ドイツ語の進化は当然あったであろうが、Lutherが端緒を開いたか)

ほぼ同じ時期に発明されたグーテンベルクの印刷機の活用でLutherの訳した新約聖書が、一気に標準的ドイツ語と共に普及したと説明を受けた。Luther師の宗教的貢献は知っていたが標準的ドイツ語の普及にも貢献があった事を知り、Wartburg城訪問の意義は大きかった。



バルトブルグ城にて

母の国を訪ねて

大石 祥恵

私は、今までグループで旅行をしたことがなかったのですが、とても楽しく、また参加してみたいです。

私は母がライプツヒ出身なのですが、東京で生まれ、湘南・中国で育ちましたので、ドイツのことは知っているようで、あまり知ってはいなかったのですが、今回はとても良い旅行が出来

ました。

特にアイゼナッハのワルトブルグ城など、歴史的な意味が深く、とても感動しました。

それに加え、ホワイトアスパラカスのオランダソースなど私の大好物でしたので、とても美味しく頂きました。

これからもよろしくお願い致します。

ドイツ旅行の思い出

広瀬 信昭

過去、団体の海外旅行に良い印象の少ない私でしたが、今回はあらゆる意味で脱帽・感謝です。団長さん、企画・実行に移された方々、添乗員、案内・通訳のかたがた、熱意と経験の賜物でしょう。年齢が近く、知識豊かで思いやりのある同行者にも恵まれたと思っています。

ドレスデンとミュンヘンで望外の名画を見ることができました。中身が濃くて質の高いのに、リラックスできて笑いが絶えない、こんな楽しい旅行は記憶にありません。ありがとう。

初日に単語を三つ覚ええました。乾杯の音頭“ツム・ヴォール”、勘定のとき「一緒にしてください」の“ツザンメン”と、じゃがいも“カルトツフェル”です。一日で三つなら、十日で三十覚えられる！と思ったのは甘かった。私の勉強は学生時代からこんなもの。帰国までに覚えたのはあとひとつ“ラーツケラー”だけでした。

でも、この四つだけでも役に立ち、帰国後辞書を引きました。じゃがいも“カルトツフェル”にはく話・戯として（大型の懐中時計；団子鼻；特に靴下の大きな穴；空気の抜けたサッカーボール）の意味もあるらしく、ドイツ人のユーモアを感じました。“ラーツケラー”は（市庁舎の地下のレストラン）とちゃんと書いてありました。どこの小都市でも、庁舎の地下は美味しいものが出るレストランになっている。夕張もこんな豊かさを感じさせる市になってもらいたいですね。

ミュンヘンで三日居残って観光をしました。中でも、小さいながら真珠のように美しい“アザム・キルヘ（教会）”、印象派直前までの名画を集めた美術館“アルテ・ピナコテーク”、船と飛行機と機械好きにはたまらない博物館“ドイツチェ・ミュージアム”はお勧めです。

5月26日

愉快的な旅

広瀬 春子

本当に愉快的な旅でした。

5月14日午前4時起き、前日からワクワクしている気持ちを落着かせ車で成田着、何と集合時間の一時間半も前に到着してしまいました。特別待合室で一同出発式に臨み、会長の織田様、添乗員の阿部氏の引率で機内へと移動、フランクフルトに同じ日の14時35分着、ガイドのゆかりさんがスタンバイして下さいました。私にとってはドイツは44年振りの事ではありましたが、まったく初めて同様、キョロキョロするばかりでした。200km離れたアイゼナハ着後、美味しいドイツ料理とビールを堪能、寝っ伏しているはずの胃も、おいしい料理には受け入れOKでした。翌日は古いお城、教会、パッサ、ルター、ゲーテのそれぞれの家を見学

世界史の教科書でしか知らない事を目の当たりにして、私までがなんだか古い人になってしまった様な錯覚をしてしまいました。

ドイツには親日家が多いと言う事は聞いていましたがワイマールのCafé Frauentorで協会会員の可愛い金髪のお嬢ちゃまの名前が「まりこ」ちゃんと何い驚きでした。

4月半ばに「ドレスデンの最後の日」と言う映画を観ました。60年前のあの悲惨な姿はどこにもなく最新のVWのガラス張り工場では目を見張るばかりでした。とは言え、宝物殿、絵画館ではよくぞそのまゝの姿で保存されているなーとただただウツトリ見とれていました。（ここだけの話ですが、横に居りました主人が、宝を見終えた後に「値段がついていると解りやすい

んだけどな…」「フ・フ・フ・」笑ってはおきましたが、内心「そーだ・そーだ」と納得したものでした。）

毎食が楽しみでした。ドイツらしい美味しい料理ばかりでした。案の定、目方増！丁度ホワイアスパラガスのシーズンで、これ又一生分

味わえ何も言う事はありません。よかった、よかった。

企画・交渉・案内をして下さった方々、私共に声を掛けて下さったOご夫妻、旅行を共にした皆様、ありがとうございました。

お陰さまで毎日が感謝、感謝の日々でした。

ドイツ旅行を振り返って

三谷 喜朗

そもそも此の旅行は、昨年Weimarより138名の方が、此の湘南地区を訪問来日したことから始まる。以来、会員各位のご意見、ご希望などを伺いながら企画された。

呼びかけた多くの方の中には、色々な御事情で参加出来なかった方も居られ、誠に残念な思いもありましたが、織田会長、旅行社の阿部さん、会員の佐合夫人、樋口夫人の御努力とお人柄、そして参加の皆さんの御協力で、皆が終始楽しく、和気合い合いと、そしてつつがなく終わることができたのは湘南日独協会の誇りかと思っております。

皆さんが感じ、思っておられる事には私も同感に思いますので特に申し上げるのは重複しますので省略させて頂き、特に個人的に印象強く残るのは

- ① Muenchenのピアホール、Muenchner Hauptでの最後の夕食会で実に華麗に森

野夫人と織田さんがステップも軽やかにダンスを披露された事

- ② 帰りのバス内で石井さんが明朝早くUSAに向けて発たれる由で一足先にお別れのご挨拶で慶応の応援歌を高らかに歌われました。時折しも6大学野球の真最中、お元気なのに感服したこと。

- ③ 往復共に機内は満席、かくもドイツを旅行する人が多いとは思ひもよりませんでした。

- ④ 旅行同行を諦めていた家内がDr.に背を押されて楽しく参加できたことであります。

- ⑤ 最後に皆さんとお別れして旧友を訪ねてBonn, Aschaffenburgと参りましたが乗り換えのある列車の旅に比して、又、荷物の扱いについてもバス旅行は本当に良かったと思っております。 以上

ドイツ旅行の思い出

鳴田 博伸

湘南日独協会の会員ではありませんが、三谷様のご好意により今回の旅行に参加させて頂きました。

会社勤務時代に数回にわたり仕事でドイツに出張しましたが、いつもベルリン、フランクフルトなどの大都市ばかりでした。今回は旧東独を主体とした、また特に田舎の町なども含めた旅であり、昔のドイツの良さを堪能しました。

ワイマールでは独日協会員との友好懇談会が

あり、その時、“VELINE JOHNSEN”さんと知り合いになりました。私の隣に席をとった彼女と片言の英語と日本語で語り合い、また記念写真を撮りました。帰国後、彼女に写真を送りましたが、このような機会は通常のツアー旅行では考えられないことです。彼女からワイマールの絵葉書を送ると言われたので、それを待っています。

▼右から織田会長、
ワイマール市長、
ローマン ワイマール独日協会会長



▲パッサウ市庁舎にてレセプション



一枚の写真

鴨田 美智子

私のPCの壁紙は、今日からドイツ旅行の写真1枚だ。それはドレスデンの街角でケンケン遊びをしている子供たちの明るい姿、シャッターを切った時の日の光さえも忘れられない。眺めていると過ぎた1週間が夢のようだ。

どの街でも歴史と文化を深く感じる時間が過ぎていった。心に残る旅にいらなったださっ

た皆様に感謝。そして世界中の平和を祈る気持で一杯だ。

朝食での皮付きポテトを、何の味付けもせずに食べた時の美味しさ！それは素朴で温かい味わいだった。チョッピリ触れ合ったドイツの人々の温かさにも似て……

旧東独旅行記

稲見 格

5月14日(月) アイゼナハ到着。現地ガイドは、マークゆかりさん。

14日夜：雨、Ratskellerにて、三谷ファミリー(三谷夫妻、勝田夫妻、森野さん、鴨田夫妻)と一緒に、オニオンスープ、ソーセージ、ザワークラウト、デザート(野いちご、ジャガイモの小団子、りんごのから揚げ)、白ワイン

5月15日(火)：雨

1067年築のヴァルトブルグ城見学、世界遺産なるも平凡な城で印象浅かったが、ルターがここで新約聖書を翻訳したとの事です。パッハの家とルターの家を見学、音楽と宗教(キリスト教)には興味なく、ただ寒いだけ。

81km先の世界遺産のワイマールへ。

ゲーテの家見学。

昼飯：Ratskellerにて、全員24名で、オニオンスープ、大型ソーセージ、ザワークラウト、大きな芋団子(potato dumpling)、デザート(ケーキ?)、ビール

ワイマール独日協会の市内案内。

午前中の旅行者のガイドさんも、午後のワイマールの独日協会のガイドさんも、パッハ、ルター、ゲーテ、シラーについて熱弁を振るったが、こちらは雨の中傘もなく寒くて震えた。でもその熱弁に刺激されて、帰国したら、ゲーテとシラーについては、もう一度調べてみようと思った。

夕食：Art Hotel Weimarにて、立食。アスパラガススープ(匂いはすれどアスパラガスの姿無く不思議なスープであった)、パイキング、ビール。毎食ソーセージと芋団子では適わないと思ったので、助かった。バスにて200km先の世界遺産のドレスデンへ。

5月16日(水)：

ドレスデンから70kmの木工玩具のザイフェンへ。「おもちゃ博物館」も「おもちゃ工房」も面白かったが、孫が居ないので、買物する気にならない。誠に残念。

昼食：古いホテルのレストランにて、アスパラガススープ(麦粉の団子入り)、ハム、蒸かしたジャガイモ(これは美味しかった)、ビール。

7km先のツピンガー宮殿(後期バロック様式)に行ったはずだが、全く記憶に残っていない。Schlossplatzにてエルベ川を背にして、右にSemperoper、カソリック旧宮廷教会、ドレスデン城、左に、Frauenkirche、やや正面の君主の城壁が、タイル作りなのは面白かった。ドレスデン城の一角の緑の丸天井で、宝飾品を閲覧した。

夕食：ヒルトンホテルの二階に日本料理屋があった。三谷さんはここで食べたかった様だが、ソーセージをもって食べたいとか、野菜が食べたいと言う人が居たので、レストランを4-5軒見て廻り、最後にピストロにて、三谷ファミリーと、サラダ、ハム、チーズ、パン、ビールに白ワイン。ここには、英語のメニューがあり大助かりであった。

5月17日(木) 26km先のマイセンへ。

マイセン国立陶磁器工場と博物館見学。魅力的磁器ではあるが、元々お土産を買う習慣がない上に、高く手が出ない。これも残念。

昼食：レストラン“ヴィンツェンリヒター”にて、アスパラガスのクリームスープ、ハム、チーズ、アスパラガスのピザ風、ビール。

ドレスデンへ戻る途中にホルクスワーゲンの最新ガラス工場。溶接を使わず高級車を手で組立てている。ベンツやBMWやLEXUSと同じ金持ち

層をターゲットとしているらしいが、この新工場への投資金額を回収できるほど、売れるか否かは疑問である。ホルクスワーゲンは、ポルシェに買収されるらしいから、ポルシェの客層からは、注文取れるかもしれない。

空路ミュンヘンへ。

夕食：ホテルが都心から離れており、9時半過ぎたので、デリカテッセンで買物も出来ず、部屋で持参した煎餅、甘納豆とビールの食事をす。疲れ気味の胃袋には軽くて丁度良い。

5月18日（金）バスにて191km先のパッサウへ（オーストリアに近接し、2000年の歴史がある）。聖ステハン大聖堂（後期バロック様式）で、オルガン（17,974本のパイプ、233本のレジスター、4のグロッケンシュピールを持つ）の演奏を聞く。家内の横にハノーバー独日協会長のMs. Renate Schaadtが座り、家内に話しかけてくるので、日独会員でないことが言えない様に、英語で何とか対応したが、冷や冷やものだった。世界で第3番目に大きなパイプオルガン（5つのオルガンからなる）は迫力十分で、中世の平民にキリスト教を信じさせる為に、大いに役立ったと思う。

最初にケルト人が来て、次にローマ人が来、その後にゲルマンが進入し、十字軍やトルコ戦争やナポレオンの軍勢のとりでともなったそうだが、ドナウ、イン、イルス川の合流点で、岩塩の交易で、相当豊かであったとの事で、イタリアから芸術家を呼んで、大聖堂を作った。1662年と1862年に大火災に遭い、この時バロック様式で再建された（元はどのような様式だったのか）。

昼食：独日協会で予約されたレストランで、スープ、アスパラガス（初めて本物の太くて白いアスパラガスに出会う）、ハム、デザート、ビール。

45分のクルーズにて、ドナウ、イン、イルス川の合流を見る。バスでVeste Oberhaus（オーパーハウス城、1219年築で、ゴシック、ルネサ

ンス、バロック様式）へ行くも中には入れず。ここから街の景観を見る。市役所（Rathaus）の川側の壁に、過去の洪水水位の標があったが、一番高いのは、道路より5mくらいあるのには驚いた。

18:15市役所（Rathaus）にて、パッサウ市のReceptionを受ける。

日本大使が英語で短い中身の無い演説したのには驚いた。原稿を読み上げても好いからドイツ語で、内容ある演説をすべきである。日本の外交のPoor（貧弱）さを絵に描いたようであった。出されたワインは、白赤ともにイタリア産であった。良いワインは、ドイツでは出来ないのかな。

夕食：Zum Koenigにて、クリームスープ、鮭+鱈+魚（名前がわからぬ）が乗ったご飯、ビール。

5月19日（土）オーストリアのSchaerding訪問したが、子供のキリストを背負った男の像のある噴水の広場から、バロック様式の家並みを見たり、小高い山の上に登って、町を俯瞰した。余りに印象が薄かったので、帰国してからInternetで調べたが、大した事は書いてなかった。パッサウに戻った。

昼食：ホテルの横のZum Koenigにて、ピノキオと言う子供用（普通のスパゲッティは値段から推測して多過ぎると思われたので）のスパゲッティを食べてビールを飲んだ。

大聖堂前の広場に移動遊園地（遊具が空気で膨らまして出来ている）ができており、トランポリンで遊んでいる女の子達の脚の長いのは、惚れ惚れした。ポヘミアングラスの「ガラス博物館」（バロック時代から1950年までの3万点の展示品あり）を見学。

ミュンヘンに帰り、三越でショッピング。何も買わないのも気が引けると思っていたら、Gold Pfeilの財布（昨年5月20日にアテネで拘られてから、どこかで貰った安物の財布を使っていた）が手頃の値段で売っていたので、買う事にした。

夕食:「Muenchner Haupt」にて、Muenchner Kindl(kinder)Showを、見聞きしながら、食事する。スープ、大きなソーセージと小さなソーセージ、ザワークラウト、1000ccのビール。ドイツのビアホールだから、覚悟はしていたけれども、予想以上に騒々しいのには驚いた。

5月20日(日)

朝食: ホワイトソーセージを食べた。

市の中心まで、電車で6駅(タクシーで10-13ユーロ)離れているし、日曜日なので、店は閉まっているし、時間も沢山ないので、近所を散歩することにした。花屋の中に入ったり、スポーツクラブへ首を突っ込んだり、教会の墓地を見たりしていたら、お昼になったので、ホテルに帰った。

空港で、勝田さんから頂いた煎餅と我が家から持参した煎餅を肴に、Weiss Bier(結構いける味であった)を1000cc飲んだ。

毎日の朝食は、ドイツ式で美味かったが、Roh Shinken(生ハム)が、ミュンヘンに近づくにつれて、高島屋の地下のダルマイヤーのハムと同じ味に近づくのに気が付いた。そう言え

ば、ダルマイヤーのハムの名前は、パイエリッシュ何とかと言ったっけ。又、Hotel Passauer Wolf(Passau)とHotel Marriott(Muenchen)では、朝食にSmoked Sermonが出され、美味であった。

ゴルフを遣って居り、スポーツクラブへも通っているにも拘らず、足が重かった。長時間飛行機に乗って居た所為か、乾燥した気候の所為か、余り好きではないソーセージばかり食べていた所為か(坂道が多かったのが真の原因と思うが)。

今度の旅が楽しかったのは、同行した皆さんのお人柄によるものが大だと思います。旅は道連れと言いますが、道連れが良くなくては、旅は苦痛になってしまいます。

追記:

1. 家で飲む朝のコーヒーと夜のビールが不味い(時差の所為で、胃腸が正常でないのか、ドイツのコーヒーやビールは、美味しかったのか)。
2. 日本のリンゴは美味しい。

パイプオルガン演奏に感動

稲見 順子

旅行中は大変お世話になりました。今回の旅行は、市内各町村とも選り抜かれた良い所ばかりを廻った気がいたします。

天気の話は仕方がないと思いますが、始めの2日は寒くて残念でした。それでも雨上がりの森の中は清々しく、バルトブルグ城の見学やワイマールの会員方とのカフェでの会合が、とても印象に残りました。折り紙を喜んで戴いたので嬉しかったです。

ドレスデンでの再建した教会や建物など、ドイツの方々の気質には感心しました。パッサウの教会でのパイプオルガン演奏は最高でした。ハノーバーからいらした女性の会長さん

に英語で話しかけられ何とか会話できた事も嬉しかったことの一つです。

市役所でのレセプションも大変盛大で、初めての経験でしたので楽しく過ごせました。旅行全体では、各市町村の移動が長く感じました。個人的にはガラス博物館の見学時間が少なかったのが残念です。食事を各自でとる旅行は初めてでしたが、これは楽しかったです。ドイツ語はダメでしたので、三谷さんにオンブにダッコでしたが、ザイフェンのおもちゃ村や、マイセンの陶磁器工場、博物館等は、一般の観光ではなかなか行くことができませんので本当に有り難かったです。有り難うございました。

緑の多いことに感心

勝田 佳代子

この度のドイツ旅行ではいろいろとお世話になりました。旅行のコースはお世話下さった方々が、苦心して如何に充実した良い旅にするかを検討を重ねて企画をたてて下さったという感じがしました。既製品ではない手作りの心の通った旅を楽しませていただきました。

どこも皆、文化的、歴史的に興味深い町をめぐることができました。パッサウの大聖堂のオルガン演奏も心に残りました。ホワイトアスバラガスも堪能しました。

そしてビールも。

市場をゆっくり見ることができなかったことがただ一つ残念なことでした。

フランクフルトの飛行場に始まり、道中ずっと緑の多いことに実によく落葉、常緑の樹々をバランスよく植樹している事に感心しました。是非また参加させていただきたいと思います。お仲間の方々皆さん良い方ばかりで、心の底からこの旅を楽しむことができました。

本当に有り難うございました。
(雑な感想で申し訳ありません)

美味しかったビール！

森野 恵美子

ドイツを訪れたのは初めてです。また行きたくなりました。ビールの美味しかったこと！！ミュンヘンの空港では、weizenbierで締め括ることが出来ました。アイゼナハ、ヴァイマル、ザイフェン、パッサウ、落ち着いた穏やかさが感じられました。一週間後に教会でパイプオルガン演奏会があり、アイゼナハ、

ヴァイマルの話が出て、行ってよかったと思いました。最終日のミュンヘン、Frauenkircheでミサに出ることが出来、幸せでした。グループの皆様も素晴らしい方々ばかりで食事を一緒に楽しませて戴きましたことは感謝です。有難うございました。

楽しかった旅行

宮原 シツ

皆様方のおかげでとても楽しい旅行でした。

どこまでも続く菜の花と麦畑、街路樹の豊かさ、整然とした風景、教会のすばらしさ、パイプオルガンの響き、ドナウ川下りの楽しさ、

どれをとっても新鮮な喜びでした。

又ぜひ次の計画もしていただきたいと思います。そして参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

“Die wunderbaren Tage in Deutschland im schoensten Monat”

樋口 由美子

最も美しい季節のドイツ、心温まるドイツの人々との出会い、楽しい楽しい旅でした！！
Im wunderschönen Monat Mai, als alle Knospen sprangen, ... als alle Voegel

sangen... 何度この歌を心の中で口ずさんだ事でしょう。私の属する合唱団“アムゼル”の小鳥の鳴き声も聴いて来ました。車窓から眺める緑の麦畑、美しい菜の花畑の黄色い絨毯、次々に現れては過ぎ去る教会を中心とした赤い

屋根屋根の村、道路沿いに見つけた赤いケシの花、ハナマスの花。1月に訪れた時とはまた違った美しさを見せてくれたワイマール、アイゼナッハの町、ヴァルトブルグ城。

初めてのPASSAU、シェルディングの美しさもすっかり私を虜にしていました。PASSAUの部屋からはちょうどペーター教会の入り口すぐ上のSt.ペーター像を臨む事ができ、ちょっと敬虔な気持ちに。そのSt.ペーターに誘われて朝食前のひととき、ドームに通じる小道を散歩、そしてドゥルヒガングを通りドナウ湖畔へ。前夜駐独大使主催のレセプションのあったのはそのガラス博物館、PASSAU市長主催レセプションはその先、式典の行われたバロック様式の大ホールのニーベルンゲンの歌、PASSAUの歴史を描いた大きな壁画などの立派さに圧倒された市庁舎、昼間訪れたドームでは世界一大きなパイプオルガンのコンサート、5箇所から響き渡るオルガンの音色と教会内部の装飾に心奪われ、キリスト昇天節で混み合うドームも現地日独協会の計らいで特等席が用意されていました。協会員イクコさんの熱心なガイドをはじめ、全ドイツ日独総会を主催なさったPASSAU会員の皆様のご尽力でとても充実した2日間でした。

日独総会にも参加してみたいし、市内観光もしたいという私に、総会途中、「今なら15:30の船に乗れますよ」との会長の優しい一言にO氏と共に会場を抜け出し船乗り場に、でも急いで出た川はイン川。歩きまわって辿り着いたドナウには船がいっぱい、いったいどの船？出航まであと5分しかない「15:30発の船はどれ？」「あの船が今ここに着岸するからここで待てばいいよ。」「でも20人くらいの日本人グループが居るはずなんだけど、どこ？」「プタペストに行くんじゃないの？じゃ、あっち11番ピアだよ。」「エー、ずっと遠くじゃない、もう間に合わない！でも走った！走った！ぎりぎりセーフで飛び乗った。暫くして「先ほど2名が切符なしで飛び乗ったので

すが…」「ハイ、私です。今あなたに払えばよろしいでしょうか？」「まあ……、今回はいいですが…」ちょっと船員さんを困らせてしまったかな…？

5月に70歳の誕生日を迎えるベルリンの友達へのプレゼント、日本からカバンに詰めてきたままになっていた。最後の土曜日、郵便局を目指し、PASSAUの街を突進、閉局まぎわ発送依頼したら、局の人が思いがけずバラの花を一輪なんとも無造作に下さった。

“Vielen,vielen,vielenDank!”、幸せな気持ちでイン川ほとりの町立劇場隣の総会会場に舞い戻ったのでした。途中レストランKowalskiなんてのも発見！カメラに収めて。

来年は5月1日よりカールスルーエでの全ドイツ総会、引き続き独日、日独協会パートナーシップ旅行が予定されているようでした。

最も心に残った、ワイマール日独協会員との交流会。ほんの半日だけのワイマールでしたが、雨に打たれながら市内案内をしてくれた元パレリーナさんと通訳の声楽家ノリコさんの熱心さに必死に聞き入りました。そしてお茶会は正に心身ともに温まるものでした。織田会長が鎌倉市長から託された親書をワイマール市長に贈呈、大事な役も無事果たしました。各テーブルはそれぞれ盛り上がり、I夫人は折り紙を披露し喜ばれ、メインテーブルでは来年の訪日も決まったようでした。別れ際ローマン会長に私が「アムゼルもその日の為にしっかりと練習いたします！」と挨拶しますと「あのChorleiterinによろしくお伝えください！」と伝言も承りました。私が1月ワイマールでお世話になったご夫妻は長い休暇をとり何と自転車！でバイエルン旅行、5月末に帰宅し私のワイマール訪問を知ったと残念がるメールが13人もの自転車隊の写真と共に届きました。再会はまたの機会に取っておくことになりました。架け橋は少しずつ堅固になっていくのを感じます。

現地の人との交流でももうひとつうれしかったのはミュンヘンでの友達との再会。毎年日本のオクトーバーフェストに来日演奏している楽団

のメンバーと友達が8人もピアホールで待っていてくれたのです。マリアンネと歌った「野ばら」彼女と踊ったポルカ、それにつられて踊りだしたMさんと会長のポルカ。会長のステップの軽やかなこと、思い出されます。今度ミュンヘンを訪れる人には彼らの楽しい演奏があり、地元の人に親しまれているピアハウスAugustina-隣接してビール工場も持ち、日本の観光ブックにも載っている-を絶対にお薦めします！中央駅にも近く、私の体験ではホップブロイハウスよりお薦め！大きさではHBだけれども。

そして私のすてきな思い出はドレスデン、ゼンパーオーバーでモーツァルトの「後宮からの脱走」を観劇できた事。市内ガイドの合間にチケットの為に走り回り、ホテルに着替えて走り、ドタバタ騒ぎの末、やっと入手した当日券。東京からきちんと手配していたCさんに優雅にエスコートして頂き、オペラ鑑賞。休憩の時バルコニーから眺めた数百年前と変わらないであろうほのかな光に浮かび上がるカテドラル、レジデンスなどの美しい夜景。オペラ終了後、ゼンパーオーバー広場を取り巻くバロック建築群とエルベ川、とてもロマンチックで少し歩きたかったのに、降りだした雨の為、タクシーでホテルへ。立見席でお隣だったヴェルツブルグからの元ユニ・リーパー、マネジャーさんご夫婦との会話、前の席

の黒ロングドレスに真っ赤なサテンのショールの美しいお嬢さんとボーイフレンド、思わず「お美しいですね！」と声をかけてしまい、戻ってきた微笑のまた楽しかった事！上演中は実は睡魔と闘っていたことなどすっかり忘れ、ベッドで思い出に浸りながら私のドレスデンのすてきな夜は更けていきました。

「目に青葉、山ほととぎす、初経」をこの旅行に置き換えると「目に青葉、木々にアムゼル、シュパーゲル」。「食った、食った、いっぱい食ったシュパーゲル」、旬のホワイトアスパラガスいっぱい美味しく食べました。

ミュンヘン空港でターンテーブルに忘れた傘（思わぬ雨の為アイゼナハの美味しい肉屋で買った思い出の傘）、ホテルが空港に隣接していたので一人ピックアップの為、再び税関検査を通り出発ロビーから到着ロビーまで一巡し直したりちょっとしたトラブルもけっこう楽しんだトラベルでした。

帰国日、フリーの午前中、私はホテルで一枕が6つも用意された3人用？の大きなベッドでゆっくり休む事に。でも皆様は元気！元気！美術館へ教会へマリーエン広場へと飛び出して行ったパワーに感服しました。

すてきな皆様と楽しい旅をご一緒させて頂きありがとうございました！全てが素晴らしいドイツ旅行でした！そして私を快く送り出してくれた家族に心から感謝しています。

夢の一週間

佐合 千佳子

アウトバーンを走るバスの窓から眺める景色はとても美しく、穏やかな丘陵地帯に、どこまでも広がる一面の黄色い菜の花畑。のびのびと枝を伸ばした街路樹マロニエには白い花が咲き誇り、正に“Im wunderschönen Monat Mai”「麗しき五月」の旅となりました。

アイゼナハ、ワイマール、ザイフェン、ドレスデン、マイセン、パッサウ、ミュンヘン、…

学術的にも芸術面でも、それぞれに興味深い町ばかり。美しく趣のある町を巡る事が出来、とても感謝しています。

ソーセージ、ジャガイモ、季節の“Spargel”「アスパラ料理」、そしてワインとビール（Weizenbier）を満喫する事も出来、夢の様な一週間でした。

湘南オクトーバーフェスト

9月8日(土)開催!

予約制!!

従来7月開催していた「ドイツフェア」を衣更えて
「湘南オクトーバーフェスト」として開催します。
演奏：アムゼル／エーデルワイス・カペレ

会場 藤沢市民会館 第一展示ホール

会費 6,000円(ドイツ料理・飲み放題)

申込み 例年のように往復葉書で申込みを受け
付けています。どうぞご予約下さい。

お知り合いや友人も是非お誘い下さい。

実行委員代表 能登 崇



<広報部より>

旅行疲れの残る中、皆様より「旅の感想文」をお寄せ頂き、誠に有難うございました。又、この旅を企画して下さいました織田会長、及び、旅のお世話して下さいました東日観光の阿部様、この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

湘南日独協会 2007 今後の予定

■8月25日(土) 18:00~20:00

8月の会員懇話会(仮)

映画「バルトの楽園」

講師 未定

会場 湘南アカデミアサロン

会費 500円(資料代)

■9月8日(土) 18:00~21:00

第53回例会

“湘南のオクトーバーフェスト”

別途掲出してあります。

■10月27日(土) 18:00~20:00

10月の会員懇話会(仮)

映画「マーサの幸せレシピ」

講師 未定

会場 湘南アカデミアサロン

会費 500円

■国際交流フェスティバル11月11日(日)

湘南日独協会も参加します。

会場 鎌倉大仏(高德院) 自由参加。

■第54回例会

日時 11月25日(日) 13:30~15:30

演題 「ワイマール共和国を知ろう!」(仮題)

講師 坂井榮八郎氏(東大名誉教授)

会費 会員2,000円 一般2,500円

■2007望年会

日時 未定 会場 未定